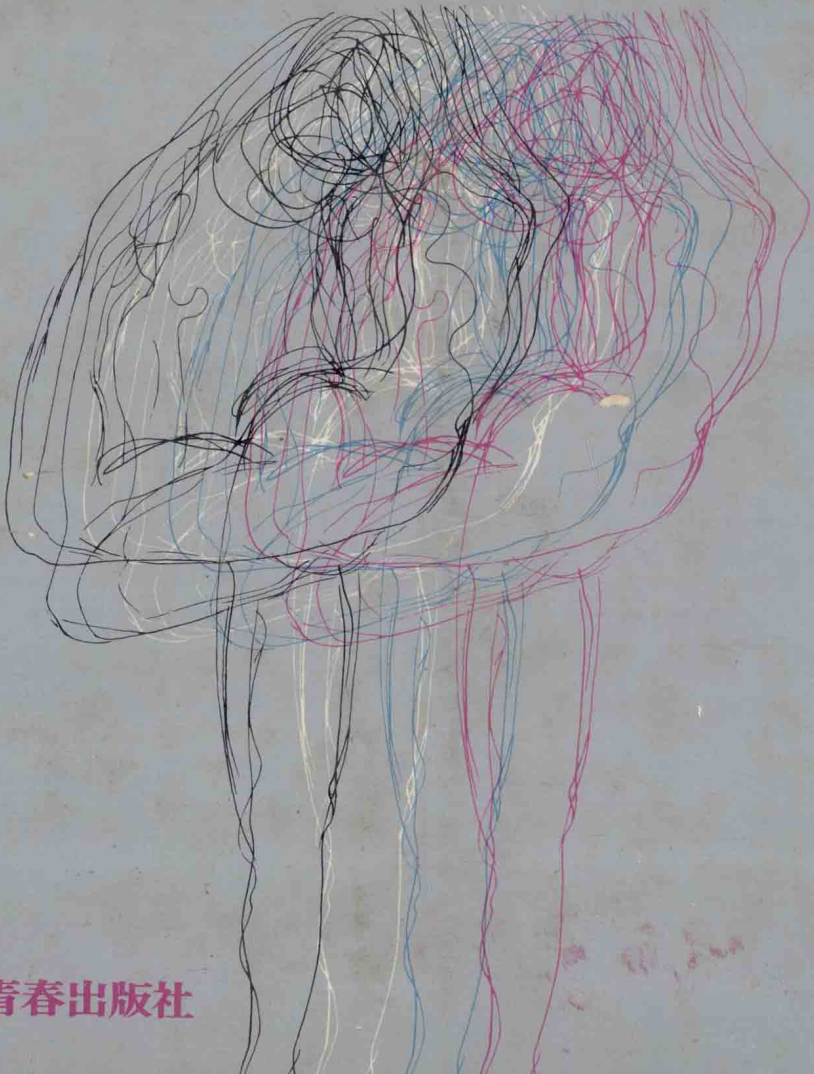
曽野綾子

すべてを賭けて生きる才覚

誰のために愛するか



青春出版社

誰のために愛するか

すべてを賭けて生きる才覚

青春出版社

著者紹介

昭和6年東京生まれ。聖心女子大学を卒業後，第15次新思潮に参加『遠来の客たち』が芥川賞候補作となり文壇にデビューした。以後大型才女時代の一画をなし，続々と話題作を発表，注目を浴びている。代表作には『一条の光』『生贄の島』『永遠の牧歌』『傷ついた華』等。近作には書き下ろし長篇『無名碑』がある。

また"新思潮"時代に知り合った[illegible]と結婚し，[illegible]

図書館蔵書
検印を廃す

誰のために愛するか——すべてを賭けて生きる才覚——

昭和四十五年三月十五日　第一刷
昭和四十六年五月二十日　第四四四刷

定価四三〇円

著者　曾野綾子
発行者　小沢和一

発行所　株式会社　青春出版社
東京都新宿区若松町73番地
振替番号東京九八六〇二番
TEL（203）五一三一～五

★この本をお読みになったご意見ご感想を編集部までお寄せ頂ければ幸いです。

印刷・堀内印刷　製本・大口製本

0000—203800—3822

本書執筆中の著者（撮影　林　忠彦）

人間が人間を選
ぶなどということ
は、本当は恐ろ
しくてできないのです。
ただ、惹かれてしま
うということ、或る人
の心のかげで雨やどり

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

をしたいと思うことは
あります。
先に立って、私の行
けない彼方までず
んずん歩いて行
きそうな人が好き
です。

曽野綾子

著者と夫、三浦朱門

（文芸春秋社提供）

はじめに——その人のために死ねるか

ほんとうは今まで、「愛」という言葉はめったに使わないようにしていたのである。愛という言葉の意味は広大で、こんなに日々、大勢の人々に何の疑いもなく手軽に使われていながら、実はこれほど本質を摑みにくいものもないからであった。

しかし、ひとと共に考えようとするとき、私はそれほど言葉づかいに厳密にならなくていいのだ、と自分に言いきかせた。

愛の定義を私はこういうふうに考える。

その人のために死ねるか、どうか、ということである。

子供がひとり燃える家の中に残されたとき、たいていの母親は、とめるものがなければ、火の中にとび込もうとする。それが愛である。動物的本能であろうと、それが愛である。

愛している男、あるいは女、のために死ねるかどうか。それは、私たちにとってひと

つの踏絵だ。

しかし、その人のためになら死ねると思う相手は、ごく少ない。その他の人たちを、私たちは愛していないのだろうか。そう考えたら絶望的になる。

しかし人間の不思議さは、愛していない人をも愛する方法があるということだ。その知恵を、私は、私の先生であるカトリックの修道女から教えて頂いた。それは虚偽でも偽善でもない。なぜなら、人間はそれを批難できるほど強いものではないからだ。

愛、愛と言いながら、実は、一生、本当の愛など知らずに過ぎて行くひとたちが、実は意外と多そうなのに驚くことがある。そういう人たちは生活技術のうまい人なのだが、その面の達者はかえって愛することは下手なのかも知れない。

愛というものは、それだけでひとつの完結した世界なのだろうと思う。愛はしかも実用品ではない。何かで買うこともできない。求め方のルールもなければ、その結果がどうなるかという保証もない。

それはしかし、生命そのものである。それだけに哀しくしかも燦然と輝いている。

曾野綾子

あ

く

じ

はじめに――その人のために死ねるか 5

I 愛は何を欲求するか…… 15

1 どんな人を愛するか 17
女が、好きになる男
本当の愛
この相手はどんな人だろうか
私はなぜ彼と結婚する気になったか
「……でなければ」という条件

2 女が本気で思ってみること 29
肉体の表現、精神の表現
表現の根源
悔むことのない性
女がひそかに考えること

3 彼女に発見がなくなるとき 39
持ち味の使いかた

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c

もくじ

愛される気分と心情
男が求めつづける女の素顔
何かに向き合っている女の姿
一刻も早く捨てねばならない愛
すべてのものに時期がある

Ⅱ この人と結婚すべきだろうか……57

1 思いとどまるべき結婚 59

本当に愛している証拠は何か
それでも結婚すべきか
愛していく才覚
本当の出発はどこにあるか

2 ステキな夫婦になってはいけない 69

夫は何も言わないが
〝ある点……〟の間
二人の統治者がいては困る
ついた嘘は重荷である

どこを愛しているのか
考えねばならぬこと
純粋に楽しむ家庭
3 夫婦はいかに対処していくか 85
結婚による自分の弱点の発見
おかしいとり合わせ
幸福感の味わいかた
女の方がバカだと思えばこそ
Ⅲ 一人の男を愛するとき…… 95
1 女の生きがいは何に見出すか 97
恋から愛への変質
愛は盲目的に信じることである
持ち味を生かされている妻
女は何に興味を見出すか
2 もう後へは退けないとき 105

もくじ

社会との関係を自ら持つとき
ひきつける自然の色気
興味が持てない不幸な感覚
妻も知らないあまりに壮絶な姿
一人の人間の美しいひとつの考え方
3 本当に心から愛せるか 117
愛は襲われるものである
すべての人は〝眼がない〟
愛と憎しみとは同質の感情
愛するに到るまで

Ⅳ 自分が落ち込みかけている穴……127
1 夫は自分の望むようになるか 129
夫は引き返せない
ともに傷つかなければ他人になる
夫を見る妻の心得
夫の話を受けとめる素地のない妻

2 この世の中を一人で歩けるように 142
私に起った二つの出来事
子供に期待する第一の点
母が願うささやかな生
一人の大切な〝人間〟のけじめ
自ら切り開いていく自覚
3 心の最も弱い部分 152
引き戻すことは不可能である
〝コロシテヤル〟とうずくまった私
母性本能を失った女たち
自分の人生を持てなくなった人たち
母のなし得る偉大なこと
4 一生の運命の鍵 165
自分の行為を信じるために
外に向かって心を開かなくなるとき
この世を生きる夢

もくじ

人生は苦しみを触覚として

V 女は何に迷い苦しむか……175

1 愛される女の要素……177

自分を相手に与えつくす女
バランスのとれた魅力
愛される女の美しさ
かわいい女になる秘訣

2 自分でそこへ歩いていく楽しみ……187

〝目的〟は生きがいになる
自分の中にいる敵

VI 私が決心した日……195

1 夫によってひき出された女……197

私の弱点をまっ先あばいた男
まんまとひっかかった私

不思議な運命の時
強烈で鮮やかな岐路に立った日
不細工にありのまま生きること
同人誌をとりまいたグループ
二人が無名で、お金もないしあわせ
何があってもついていく
人生はノアの函舟である

章扉カット・生澤　朗

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.c